

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 飯南町立頓原小学校 ～

1. 概要

6月27日(金)、飯南町立頓原小学校で「古代の人々の生活(お金)について学ぼう」と題して『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

まずは旧頓原町内の板屋Ⅲ遺跡について紹介し、三瓶山の活動が活発だった縄文時代から人々が生活していたことを古代文化センター職員がパネルを用いて説明しました。

続いて和同開珎づくり体験を行いました。各グループで役割を分担し、協力して作業してもらいます。あわせて古代のお金と和同開珎についても説明し、お金の歴史や特徴、当時お金が作られた理由について考えてもらいました。

2. 学習の様子

1)和同開珎づくり



頓原にはいつ頃から人が暮らしていたでしょうか



和同開珎づくりスタート



お金はなぜ作られたのかな



きれいに出来ました！

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・今私たちの住んでいる飯南町には縄文時代から人が住んでいたことはとてもびっくりして心に残りました。和同開珎は昔の人はとても工夫して1つ1つ作っていたということや、作る時なんてあまりないからとても心に残りました！
- ・三瓶山がふんかした時に松江まで灰が飛んであんな飛ぶんだなあと思いました。
- ・和同開珎を作ったことです。理由は、当時の人たちは物をこうかんしていたけど、今はお金で物をかったりしているので、そのちがいに気づけました。和同開珎をつくって、昔のお金はまるいところは同じだけど、中のしんかくい形をしたところはちがったので、なんでこの形になったんだろうなと思いました。

2)担任の先生から…

・1時間の中で和同開珎づくりや古代の貨幣についての説明もしていただき、とても充実した活動でした。体験を通して学べるというのが、とても魅力のある内容でした。

3)古代文化センターから…

学校がある飯南町では、三瓶山の活動が活発だった縄文時代から、昔の人が使用した土器などが発掘調査によって確認されています。学校の歴史の授業ですでに習った縄文時代に、頓原にも人が住んでいたことに皆さん大変驚いた様子でした。自分たちの住んでいるところに、いつごろから人が住み始め、どのような暮らしをしていたのかを少しご紹介できたので、地域の歴史に興味をもってもらうきっかけになったのではないのでしょうか。

和同開珎づくり体験では、3～4人のグループに分かれて作業してもらいました。合金を鋳型に流し込んだり、枝銭から銭を取り外したりするのはなかなか難しいのですが、どのグループも作業を分担し、協力ながら上手につくることができたと思います。あわせて“お金の歴史と和同開珎”について解説しました。なぜ、お金が必要になったのかという質問について、皆さん真剣に考えて発言してくれました。島根県内でも和同開珎が見つかっていますので、機会があれば博物館に足を運んで本物を観察してもらえると嬉しいです。